

の衣裳を著せ、江戸の張をもたせて、大坂の揚屋で遊びていといふは、新町のことでありやす、千長、揚屋の數も餘ほどありやすか子、鶴人、たしか七八軒もムリヤシタツケ、まづ堺屋に吉田屋、中ずみに井筒屋、高島屋にはりよ、茨木屋と七軒でムリヤス、万松、モシ置屋おきやといふは何のことでムリヤス、鶴人、女郎を抱へておく内のことを置屋といひやす、江戸の様に、女郎屋へ直に入つては買やせん、大坂では揚屋へ女郎を呼び出してあそびやす、それも新町ばかりのを揚屋と稱へ、あとの茶屋のは呼屋よびやといひやす、万松、跡の茶屋とは、鶴人、新町は江戸の吉原のごとく、御免の場所でムリヤス、其外江戸でいふ岡場所といふやふなが、幾等もありやす、島の内だの、坂町だの、難波新地、北の新地、堀江、馬場崎、靈符など、數おほいことでありヤス、江戸の御旅松井町、常盤町、根津、谷中などの様な處でありやす、それを大坂ではおしなべて島といひやす、江戸では岡場所といひやす、其處の女郎を揚てあそぶ茶屋を呼屋といひ、新町のを揚屋といひヤス、千長、なるほど御咄で、呼屋といひ、揚屋といふ譯がわかりやした、万松、置屋といふことは、新町でも外の場所でも、同じことでありやすか子、鶴人、置屋は廓も島も同じことで有ヤス、千長、新町には置屋もよほどありやす、鶴人、さやうさ、まづ大きなのはくらはしや、つちや、つの井、中の扇屋、東の扇屋、西の扇屋、西のをりや、東のをりや、其外にもかみ喜、松瀬、かかいでや、ちくさや、ちきだや、綿長、八百新などといくらもありヤス、

〔岩淵夜話下〕權現様駿府へ御隠居被遊候以後、安倍川の傾城町杯近く候を以、御旗本の若き衆中、遊女町通ひを被致候との取沙汰有之、駿府の町奉行彦坂九兵衛、阿部川町を、二三里計も遠き場所へ移し申度と、相窺れ候處に、御聞あそばされ、九兵衛を御前へ被爲召、御意被遊候は、當所町人共を二三里も隔りたる處へ遣し候ては、如何可有之哉と御尋に付、九兵衛被承左様、御座候は、商買の障りと罷成、町人共いづれも迷惑可仕と被申上候へば、上意被遊候は、其方義は阿部川町